



国際性豊かな子どもを育てる 富士見の教育

問合せ／学校教育課 ☎055-253-1111

AETとは

皆さんは、市内の小中学校で英語を教えているAETをご存じですか。AETとは、Assistant English Teacherの略で、日本語では英語指導助手と呼ばれています。AETは子どもたちに大人気で、授業中は教室中が元気な声と笑顔でいっぱいになります。

富士見市には、小学校に2人、中学校に3人のAETが勤務しており、小学校では外国語活動、中学校では英語の授業の補助などを行っています。子どもたちはAETと関わり自分たちが普段使っている言葉とは違う言葉や文化に触れながら、学習を進めていくことができます。

小学校の外国語活動

小学校では、5・6年生を対象に、週に1時間(年間35時間)を外国語活動の時間として授業が行われています。

中学校の英語教育

中学校での英語の授業は、さらに専門的になり、小学校の「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」が加わってきます。

英語でAETとコミュニケーションをとりながら、発音やイントネーションにも注意深く耳を傾け、学んだことを自分の言葉に生かし、日常で使える英語を目指しています。

AETも英語担当の先生と入念に打ち合わせをし、生徒のコミュニケーション能力の基礎が身につくための授業ができるよう、授業の研究や工夫、改善に努めています。

生徒からは、「英語の発音が分かりやすくていい」、「英語の授業が楽しい」、「生きた英語が学べる」などの声が多くあ



小学校の外国語活動は、「外国語に慣れ親しむ」時間です。外国語に触れることを通して、言語だけでなく文化についても体験的に学んでいきます。

また、外国語の音に触れ、「聞くこと」「話すこと」を中心に相手とのコミュニケーションを楽しみ、コミュニケーションを楽しむことを目指しています。

そのため、AETは授業の中で、すべての児童にわかるように、はっきり発音すること、何度も言葉を繰り返すことを心がけています。また、自然と外国語が身につくように、たくさんゲームや遊びなどを考え、1時間の活動の中に取り入れています。

こうした取り組みを通して外国語に興味を持ち、外国語に抵抗なく、中学校へ進学する子どもたちを育てています。

り、AETと学ぶ授業は生徒にとって有意義な時間となっています。

国際性豊かな子どもを育てる 英語教育

現在の大人たちが受けてきた授業と今の小中学生が受けている授業では大きな違いがあります。それは、時代の移り変わりに伴って社会も大きく変化をしているからです。今や、英語は国際的な共通語として各国で学ばれています。将来、子どもたちが生きていく社会では、グローバルな人材がさらに必要となります。

今後子どもたちの将来を見据え、国際社会をたくましく生きぬくことができる富士見市の子どもたちを育成するため、市では外国語教育におお一層の力を入れて取り組んでいきます。

中学校のAET



マリア カトリナ
ハラタ先生
出身：フィリピン
勤務校：勝瀬中・水谷中



グレゴリー ニール先生
出身：アメリカ
勤務校：本郷中・西中

interview



マイヤー ロジャー先生
出身：スイス
勤務校：富士見台中・東中

富士見市でAETとして働き始めて3年目になりました。子どもが大好きで、教えることも好きなので、子どもたちと一緒に過ごせるAETの時間はとても充実しています。英語は単なる受験勉強ではなく、人生をより豊かに、また世界を広げるためのものです。スイスの母国語は英語ではありませんが、私自身、英語を話せるようになって世界が広がりました。

間違ってもいいので、どんどん英語を使ってほしいです。間違えることは決して恥ずかしいことではないですし、間違えることで覚えられることもよくあります。これからの子どもたちと一緒にたくさん英語を使っていきたいと思っています。

AETの授業はどのような様子ですか？



諏訪小学校5年生
古賀 大祐さん(右)
佐野 きららさん(左)

「AETの授業はとても楽しいです」「ゲームを取り入れたら、先生の顔の表情が豊かで、英語も聞き取りやすいです」「英語を話せるようになってオーストラリアのグレートバリアリーフに行ってみたい」と目を輝かせながら話してくれました。

小学校のAET



シーアン ウォークリー
フェイエル先生
出身：オーストラリア
勤務校：水谷小・南畑小・関沢小・水谷東小・諏訪小・つるせ台小



ブライアン ヨット
ピーダーセン先生
出身：デンマーク
勤務校：鶴瀬小・勝瀬小・みずほ台小・針ヶ谷小・ふじみ野小